

1 実施日

令和 7 年 1 月 23 日（木）

※子ども読書活動推進会議と合同で実施

2 視察先

藤枝市立駅南図書館（藤枝市前島一丁目 7 番 10 号）

焼津市立焼津図書館（焼津市三ヶ谷 1550 番地）

3 視察内容

(1) 子ども読書活動の取り組みについて

(2) I C タグ導入による図書の管理、貸出、返却の自動化について ほか

4 出席者

図書館協議会委員 3 人（子ども読書活動推進会議委員 5 人）

図書館協議会事務局 4 人

5 視察の概要

【藤枝市立駅南図書館】

・商業施設 B i v i 藤枝の 3 階（平成 21 年 2 月開館）

蔵書数 図書 408,165 冊 視聴覚 4,967 点

・小学校 17 校、中学校 10 校、高校 6 校

・人口 140,365 人（R 5. 3. 31）

(1) 子ども読書活動推進の取り組みについて

① 子どもたちが本に親しむために行っているイベントや講座などについて

・よむゾーくん大賞（作文コンクール）の開催

・おススメの本を絵と文で紹介 小学校低学年・高学年・中学生・高校生 4 部門

・令和 5 年度 3900 点、6 年度 3250 点の応募

・児童文学講演会の開催（R 5 年度は絵本作家の山村浩二氏）読書ボランティアと共催

② 「そらいろ図書館」について

・発達に課題がある子どもたちを休館日に招待し、気兼ねなく利用してもらう。

・平成 29 年度から事業開始。ローテーションで職員が対応し、よみきかせ等を実施。

（休館日も年末年始以外は出勤者がいる）

・夏休み前に、子ども発達支援事業所へ通知し、施設単位で来館してもらう。

・来館状況は、数人（子ども 3 人と先生）程度から 70 人（保護者を含めて）ほど。

③ 子どもたちへの貸出を増やすための工夫や、取り組みについて

・移動図書館 放課後児童クラブ 17 小学校を月 1 回巡回

・自動貸出機を使う。

④ 学校や学校図書館との連携について

・小学校 17 校・中学校 10 校の学校司書の研修会（年 4 回）へ参加

・お正月のイベント「福本」のテーマを考えてもらう。

⑤ 園や子育て支援センター、放課後児童クラブ等との連携について

・月 1 回園（29 か所）への貸出（100 冊） 子育て支援センター（1 か所）への貸出

⑥ 静岡県読書アドバイザーの活動状況について

・「静岡県子ども読書アドバイザーの会@ふじえだ」事務局が岡出山図書館にあり

・会長を通して、活動依頼をしている。

(2) I C タグ導入について

- ① I C タグシステムの導入年について
 - ・平成 20 年 6 月（平成 21 年 2 月開館）
- ② I C タグシステムに係る予算額（イニシャル・ランニングコスト）について
 - ・I C タグ予算 T R C から購入
- ③ I C タグシステム導入に際し、活用された補助金等について
 - ・補助金の使用はなし 法人の積立金を活用
- ④ I C タグシステム導入による図書館のメリット、デメリットについて
 - ①デジタル化推進、②職員管理・業務管理、③市民・来館者・利用者に対するサービス向上など。
 - ・市が I C T を進めている
 - ・リライトカード（1000 回以上書き換えができる）を採用
 - 利用者のプライバシー保護 子どもの楽しみ ペーパーレス
 - ・蔵書点検はアンテナと P O T を併用、B D S があるため不明本が減った
- ⑤ I C タグシステム導入による費用対効果の評価について
 - ・平成 20 年以前は蔵書も少なかったので比較できない

(3) ふじえだ電子図書館について

- ① 電子図書館導入の経緯と目的、現在の状況について
 - ・令和 4 年から コロナ対策
- ② 電子図書の選書方法や方針について
 - ・ポイントを絞って選択と集中
 - ・同時にたくさんの方が読める「児童書読み放題パック」60 タイトル購入（令和 5 年 10 月）
 - ・令和 6 年 10 月追加 利用が伸びている
- ③ 電子図書館導入による効果や影響について
 - ・小学生の利用増加（令和 6 年 3 月時点 小学生の 57% が利用）
- ④ 今後の方向性（継続、拡張等）について
 - ・オーディオブックの導入（同時に聞ける、大人のすき間時間に利用）

(4) 雑誌スポンサー制度について

- ① 雑誌スポンサー制度導入の経緯と、現在の状況について
 - ・平成 21 年から 9 社 35 冊
 - ・コロナの影響でスポンサーを降りたところもあった
- ② スポンサー企業を募る方法や、継続のための取り組みについて教えてください。
- ③ 今後の方向性について教えてください。
- ④ 雑誌以外の提供や支援などありましたら教えてください。
 - ・予約の多い本を寄贈してくださいと、H P や掲示で依頼している

(5) その他

- ① 大人のための朗読会について、過去にどのような本の朗読をされているのか、また参加人数は何人くらいか
 - ・ボランティアによる朗読会
 - ・藤沢周平、幸田文「えぞ松の更新」、遠藤周作「奇蹟」など
 - ・過去 5 年間の参加者は 6 人～40 人程度 9 割が女性の参加

【焼津市立焼津図書館】

- ・文化会館、歴史民俗資料館、小泉八雲記念館と併設（昭和 60 年 6 月開館）
- 蔵書数 図書 263,646 冊 視聴覚 15,216 点
- ・小学校 13 校、中学校 9 校、高校 4 校
- ・人口 135,725 人（R 5. 3. 31）

(1) 子ども読書活動推進の取り組みについて

① 子どもたちが本に親しむために行っているイベントや講座などについて

毎週土曜日におはなし会を行っている。春と秋の読書週間期間には、特別なおはなし会「おはなしフェスタ」を開催したり、図書館員がおすすめする本が入っている「おたのしみ袋」の貸し出しを行ったりしている。その他、こわ〜いおはなし会やこども図書館員講座、ぬいぐるみおとまり会などのイベントを行い、関連する図書の展示や紹介を行っている。

② 読書手帳「やいっちょ」について

平成 27 年度から市内小学生の読書活動推進の一環として、希望する児童に対し 100 冊の読書記録ができる読書手帳「やいっちょ」の配布を行っている。千冊を読破した児童を対象に「焼津市スーパー読書マスター」として教育委員会が認定している。

③ 子どもたちへの貸出を増やすための工夫や取り組みについて

読書手帳「やいっちょ」の配布や図書館が開催している各種児童向けイベントでの本の紹介を行っている。新規事業として、ターントクルこども館との共催で「ぬいぐるみおとまり会」を実施予定。

④ 学校や学校図書館との連携について

学校から授業等で使用する本の貸出依頼を受け、図書館で本を準備して貸出処理し、希望があれば学校まで配送、回収を行っている。春のこどもの読書週間や秋の読書週間に希望のあった小学校において、全クラスを対象に読み聞かせボランティアを派遣し、読み聞かせ会を実施。小学校の書初め展示を図書館の展示室にて実施。

⑤ 園や子育て支援センター、放課後児童クラブ等との連携について

幼稚園からの依頼を受け、園児が図書館に来館し、読み聞かせと一人一冊貸出を行っている。絵本の団体貸出を希望される保育園には、図書館で本を整備し、配送、回収を行っている。

⑥ 静岡県読書アドバイザーの活用、活動状況について

各所属団体に読み聞かせの活動などを行っている。今年度、小学校からの依頼で学校図書室の整備についてアドバイザーからの助言がほしいと希望があったため、アドバイザーの紹介をした。

⑦ 科学絵本講座は、どのような講座か

外部講師に依頼し、科学の実験や工作と講座内容に関連する図書の読み聞かせや紹介を行っている。講座の内容に合った児童書や夏休みの自由研究に役立つような図書も会場に展示している。

(2) I C タグ導入について

① I C タグシステムの導入年について

令和 3 年 10 月の図書館システム更新時。

② I C タグシステム導入による図書館のメリット、デメリットについて

ア デジタル化推進

自動貸出機の使用貸出、返却の迅速化により、資料の O P A C への反映も迅速化し、ウェブ上での検索の利便性が向上している。

イ 職員管理

職員数の変動はないが、I C タグ導入により資料の返却を職員が行うようになったことで、貸出、返却事務の省力化により、他の業務に充てる時間が増加した。

ウ 業務管理

自動貸出機の利用による省力化、蔵書点検の期間の短縮、資料の持ち出し防止、自動貸出機の利用及び貸出、返却に伴うカウンター滞在時間の短縮による感染防止。

エ 市民等に対するサービス向上

貸出、返却の迅速化、蔵書点検短縮による開館日の増、自動貸出機の利用及び貸出、返却に伴うカウンター滞在時間短縮による感染防止。

③ ICタグシステム導入による費用対効果の評価について

必要な機器が相応にあり、初期費用がかなりかかる。当初のICタグ導入理由が、感染対策であったことから、貸出、返却の迅速化（カウンター滞在時間の短縮）、自動貸出機の利用（貸出手続の非接触化）による一定の効果はあった。感染対策以外でもメリットは大きいと考えている。

(3) 併設施設との連携について

文化会館や歴史民俗資料館、小泉八雲記念館と連携して実施している事業や取り組みなどについて

4館合同イベントなどを実施している。また、Wi-Fi環境の整備を計画している。

(4) デジタルアーカイブについて

① デジタルアーカイブ導入の経緯と目的、現在の状況について

時間や場所を気にすることなく、過去の資料を閲覧できるようにすること、経年劣化していく貴重な資料データの保存と散逸防止を図るため、補助金を活用して導入した。併設の歴史民俗資料館でも使用できることも後押しとなった。

② デジタル化する資料の選書方法や方針について

地域資料を選定している。著作権の問題が生じにくい焼津市が著作権を有する資料を優先している。

③ デジタルアーカイブ導入による効果や影響について

資料のデータ保存により、ウェブ上での資料の閲覧が可能になった。経年及び使用による劣化を抑えることができている。

④ 今後の更新予定、計画などについて

現在、図書館ホームページで公開している。電子図書館サービスでの公開も検討していく必要があると考えている。

(5) 雑誌スポンサー制度について

① 雑誌スポンサー制度導入の経緯と、現在の状況について

平成24年から導入している。図書館費関連予算への補填とスポンサー企業に地域の交流の場である図書館を認識していただき、情報発信の場所として利用していただくことにより、地域おこしや地域活性化の一助となることを目的に導入した。現在5団体、10タイトルを寄贈していただいている。

② スポンサー企業を募る方法や、継続のための取り組みについて

図書館ホームページや館内表示でお知らせしている。スポンサー期間終了前に電話にて再契約のお願いをしている。

③ 今後の方向性について

ホームページによる募集を継続して行っていく。

④ 雑誌以外の提供や支援などについて

図書館バッグや大型絵本、ブックカートの寄贈など。